

図書館だより 8月号

令和8年 8月1日発行

王滝村教育委員会

村民図書館

TEL: 48-2134

図書館利用時間: 平日(開校日)午前9時~午後4時
8月の読書会はお休みです。次回は、9月10日(木)の予定です。

先月七月の読書会は「金子みすゞを読む」というテーマでした。

金子みすゞ(明治三六年~昭和五年)は、大正時代から昭和にかけて活動した童謡詩人です。二六歳で自死するという短い生涯でしたが、約五百編にも及ぶ詩を作りました。中でも、代表作と評される『わたしと小鳥とすず』の最後の一行が良く知られています。

「みんなちがって みんないい」

きつと、みなさんは、それぞれの思いで読んでいるでしょう。金子みすゞが詩を書いた時代背景や、決して幸せな家庭生活ではなかったみすゞの思いに寄り添って読んでいるのではないのでしょうか。読み手それぞれの読み取りや受け止め方がいろいろあって、みなさんの話を聴くと読み方の幅が広がって深まっています。

みすゞの詩は、やさしい言葉で書かれています。その奥に、深い想いが広がっていることにいつも気づかされます。

「自由に空を飛んでいる小鳥」と「自分で自分のことが決められないわたし」をくらべ、

「みんなちがって みんないい」と自由に飛べない自身を嘆いているのでしょうか。私(筆者)がこの一文から聞こえてくる声として、

「自由に飛んでいる小鳥をうらやましいと思うけれど、自由に飛べない自分を愛し肯定し、小鳥とはちがって飛べない自分を認めてほしい」

と叫んでいる声が聞こえてきます。

「○○○ができない人」や「△△△がわからない人」に、「○○○しないと困る」「△△△がわからない」と社会に出ていけないよ」などと一方的な見方で人を評価してしまいがちな昨今です。何歳なら何ができていなければならぬ...というような段階で示された内容でなく、一人ひとりそれぞれの方法で体験的に学ぶことが大切です。

そして、その時に必要なことは、個々の成長が周りの人々に見守られ認められているということが本人に感じられることです。それが、自分のままで良いという「自己肯定感」や「自信」につながっていくのです。

嫌いとか好きという感情を持ちながらも安心して自分を全開放できる「居場所」をうまく折り合いを付けながら作り出してやりたいものです。

生まれるのが百年早過ぎた金子みすゞの偉大さ 생각합니다。(小川・植木雅史)

現在、図書館にある金子みすゞの本のリストです。

『明るいほうへ』
『おさかな』
『金子みすゞ全集 美しい町』
『金子みすゞ全集 さみしい王女』
『金子みすゞ全集 空のかあさま』
『金子みすゞ詩集 こころ』
『ふしぎ』
『星とたんぽぽ』
『わたしと小鳥とすずと』

寄贈本・他のご紹介です。

著者：堀六平(ほりろっぺい)

一九四六年長野県安曇野市生まれ
シンガーソングライター及び俳優

・『堀六平のおもしろ方言コレクション』
・『信州方言さんまい せったかせわねかせってみる』
・CD『六平の傘寿の歌』

右の『信州方言さんまい...』は、二〇〇一年にNHK長野放送局より放送されたテレビ番組「お出でよプラザN・堀六平の故郷の言葉」をまとめたものです。

失われつつある地元の言葉を残していくことは大切なことだと思います。

ここ王滝小学校でも、読み聞かせボランティアさんによる「方言で物語を読む」という時間を年に二回設けております。

その当日に方言で子どもたちに読み聞かせをしてくださる方々をはじめ、前もってのシナリオ作りなど、たくさんの方々の村の方々のおかげでこれまで継続されています。

また、「王滝ことば 読み聞かせ」のCDも図書館に置いてあります。貸し出しもできますので、お気軽にお立ち寄りください。

新刊本は、

裏表です。

新刊本紹介

書名	著者	出版社	ひとくちコメント
#台所のあるところ	原田ひ香	文藝春秋	直木賞候補作品。台所をめぐる6編の「わたし」物語
空き家と移住	垣谷美雨	朝日新聞社	家を購入するってどういうことなんだろうか？
二月に憂鬱な君へ	西条奈加	東京創元社	粋で人情あふれる街が舞台。美味しい手料理も魅力
あなたの食習慣を変える100の提案	星穂奈美	ダイヤモンド社	帯より「明日の自分のために今日からできる100のこと」体がだるい それ食生活のせいかもね
世界一の給食をつくろう!にとべごはん	新渡戸文化学園	少年写真新聞社	国内外で活躍する有名シェフが協力した、究極の給食レシピ一本。読めば挑戦したくなること間違いなし!身近な材料でつくれるのも魅力
劇場という名の星座	小川洋子	集英社	帝国劇場小説・帯より「劇場愛あふれる作品」
ぼくたちは、あらそうために生きるのか? 絵本	山極寿一	偕成社	ゴリラをアフリカで長い間観察してきた、著者はゴリラには互いを思いやる気持ちがあることを知り感動したそうだ。題名そのものが人間へのメッセージ

□新しく入った絵本2冊紹介します。 由美村嬉々著 講談社

人生には、たくさんのかべがあります。思い通りにならない日もあります。がんばっていても上手くいかない、やる気が出ないと感じた時に子どもだけではなく、大人にもそっと寄り添ってくれる絵本です。「どうしたいの?」「どうなりたいの?」「そうなのね」と、問いかけの形で気持ちを否定せずに、まずはそのまま受け止めるというやさしい言葉と姿勢で描かれています。

……絵本の監修でありフィードフォワードの開発者久野和禎の言葉より……

フィードフォワードとは、ダメだった時、失敗したとき、過去を振り返りますが、振り返りすぎると、未来を切り開く力が損なわれます。「どうしてそうなったの?」より「これからどうしたいの?」といった質問を投げかけ、尋ねるのがフィードフォワードです。未来に視点を移すことで、相手の気持ちがふっと軽くなり、行動するための力が湧いてきます。

『ほんとうは、どうしたいの?ミックをかえたいようなことば』がんばっているのに、うまくいかないきみ

『ほんとうは、どうしたいの?リリアとつきのひかり』がんばりすぎて、つかれているきみへ